

2023年5月12日

2023年3月期 連結決算説明資料

双葉電子工業株式会社

1. 本資料に記載されている金額は、百万円は単位未満を切り捨てし、億円は単位未満を四捨五入して表示しています。
2. 本資料に記載されている当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を指しています。

● 当社製品セグメントの説明	P1
● 業績ダイジェスト	P2
● 市場地域別売上高	P3~4
● セグメント別業績状況	P5~6
● 連結貸借対照表の状況	P7
● サステナビリティに関する取り組み	P8
● 翌期の経営施策	P9
● 業績見通し	P10

当社製品セグメントの説明

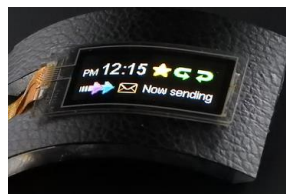
電子デバイス関連事業

- タッチセンサー : 独自の薄膜技術を応用し、高感度で耐環境性に優れたセンサーデバイス
- 有機ELディスプレイ : コントラストが高く、高精細の美しい画面が魅力の表示デバイス
- 複合モジュール : 表示デバイスにコントロール基板を組合せたディスプレイモジュール等
EMS(電子機器の受託製造)も行っている
- 産業用ラジコン機器 : トラッククレーンや農薬散布用ラジコンヘリ、ドローンなどを遠隔操作する無線リモコン等
- ホビー用ラジコン機器 : 双方向通信機能を搭載した高性能な送受信機、サーボ等

タッチセンサー



有機ELディスプレイ



複合モジュール



産業用ラジコン機器



ホビー用ラジコン機器



生産器材事業

- プレス金型用器材 : 金属プレス加工に用いる金型用のダイセット、パーツ等
- モールド金型用器材 : 樹脂成形に用いる金型用のモールドベース、パーツ等
- プレート製品 : 金型用途や機械設備、治工具の設計・製作に最適なプレジジョンプレート、CFRP製切削加工用厚板プレート「フェルカーボ」等
- 成形・生産合理化機器 : 金型内計測システム、ホットランナシステム、工作機械IoTモニタリングシステム等、生産工程の合理化を進める製品

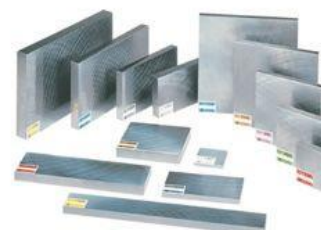
プレス金型用器材 (ダイセット)



モールド金型用器材 (モールドベース)



プレート製品



成形・生産合理化機器 (金型内計測システム)



業績ダイジェスト

- 売上高は円安の影響や材料費高騰に伴う適正売価政策の推進により増収となったものの、営業利益は在庫関連損益の悪化やエネルギーコストの高騰により赤字幅が拡大
- 半導体需給逼迫の当期業績への影響は、売上高で△16億円の減収(前期比+11億円)、営業利益で△9億円の減益(前期比+4億円)

(単位：百万円)	FY2021 (実績)	FY2022 (実績)	増減額 (前期比)
売上高	53,450	60,326	6,875
売上総利益	8,947	8,612	△334
利益率(%)	(16.7)	(14.3)	
営業利益	△1,863	△ 2,387	△523
利益率(%)	(△3.5)	(△4.0)	
(為替差損益)	(530)	(583)	(53)
経常利益	△654	△ 1,134	△479
利益率(%)	(△1.2)	(△1.9)	
当期純利益	△2,668	△ 3,499	△830
利益率(%)	(△5.0)	(△5.8)	
平均為替レート	113円/\$	135円/\$	22円/\$
期末日為替レート	122円/\$	134円/\$	12円/\$

当期の特徴（前期比）

売上高(増収)

円安の影響や適正売価政策の推進に加え、複合モジュールおよび産業用ラジコン機器を中心に売上げが伸長したことにより増収

営業利益(赤字幅拡大)

蛍光表示管事業の終息に伴う保有在庫の整理を実施したことに加え、顧客要請に伴う出荷延期や、部材欠品を回避するための原材料先行手配による在庫の増加により、在庫関連損益が悪化。さらに、国内外の製造拠点においてエネルギーコストの高騰影響を受けたことにより赤字幅が拡大

経常利益(赤字幅拡大)

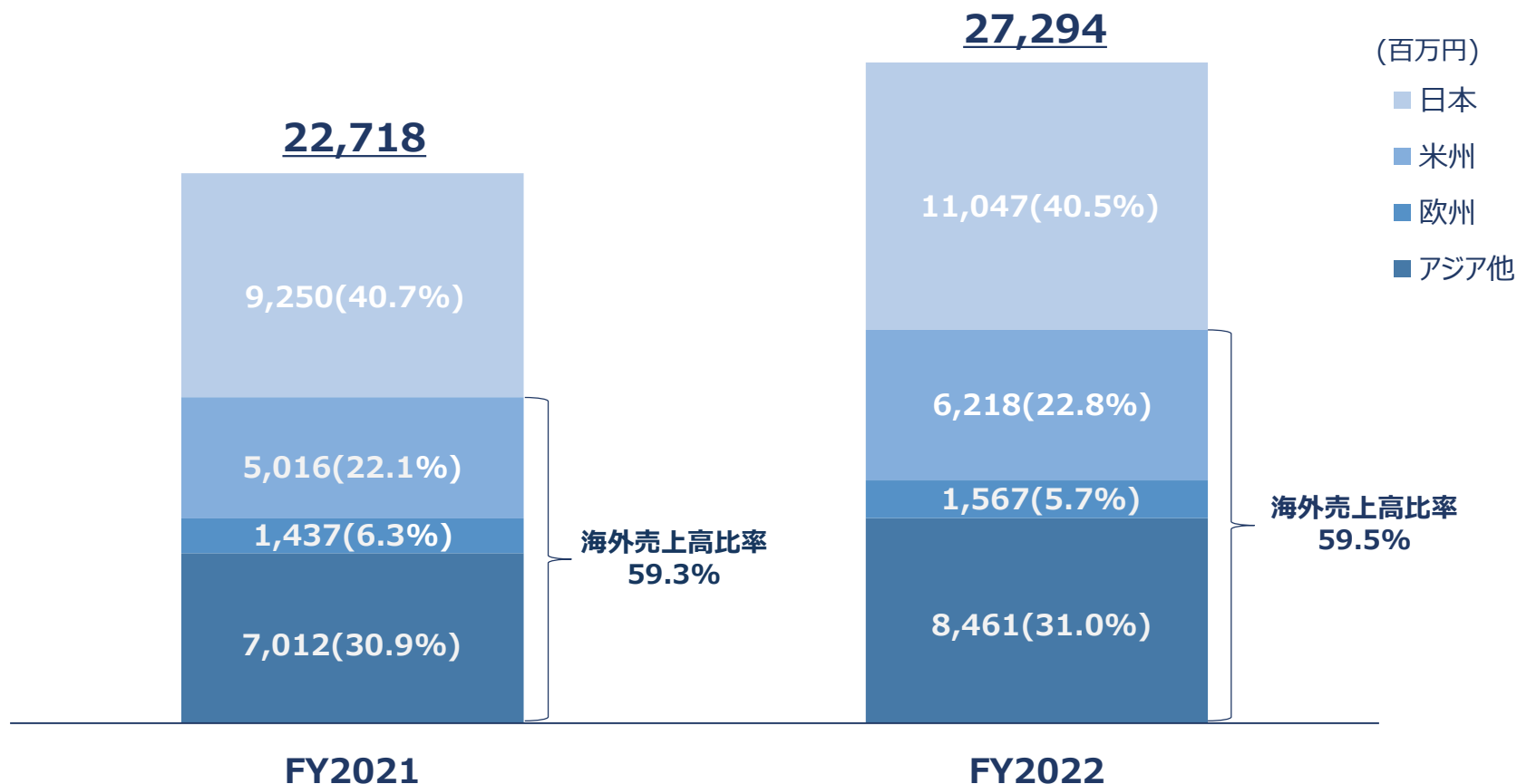
円安に伴う為替差益を計上したものの、営業損失の拡大により赤字幅拡大

当期純利益(赤字幅拡大)

経常損失に加え、主として固定資産の減損損失を計上したことにより赤字幅拡大

市場地域別売上高/電子デバイス関連

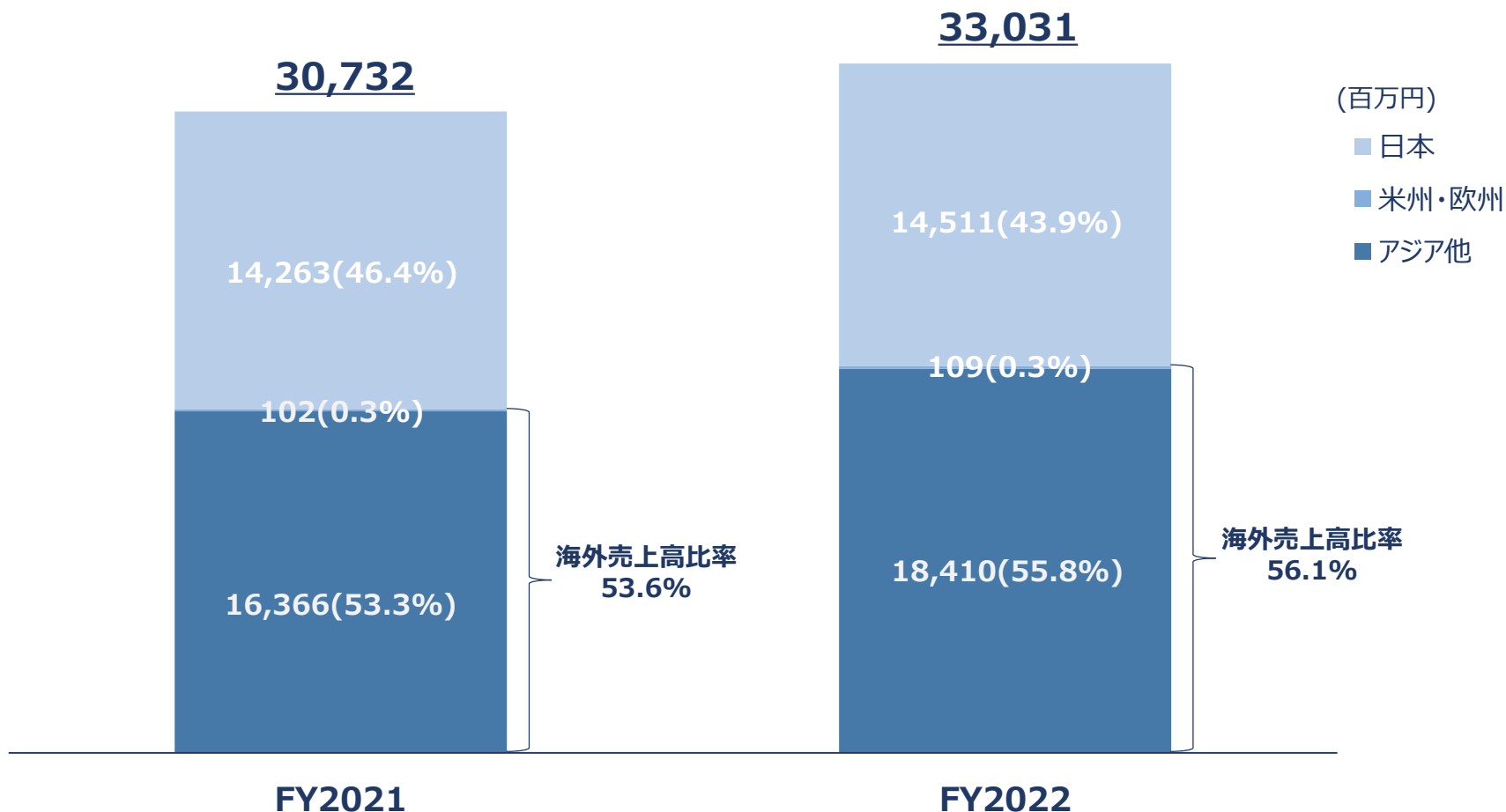
- ▶ 日本 : 複合モジュールにおいて、計測器用途や娯楽用途、EMSが順調に推移したことにより、増収
- ▶ 米州・欧州 : タッチセンサーの減収があったものの、複合モジュールの受注増加や円安の影響を受けたことにより、増収
- ▶ アジア他 : タッチセンサーや有機ELディスプレイの新品種量産開始により、増収
- 海外売上高比率 : 複合モジュールにおける増収や円安の影響を受けたことにより、+0.2ポイント増加



(注) 1.(.)内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。
 2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

市場地域別売上高/生産器材

- ▶ 日本 : 成形・生産合理化機器が低調に推移したものの、適正売価政策の推進により、横ばいで推移
- ▶ アジア他 : 韓国市場において自動車向けが好調に推移したことおよび円安の影響を受けたことにより、増収
- 海外売上高比率 : 韓国を中心にアジア向け売上高が順調に推移したことにより、+2.5ポイント増加



(注) 1.()内の数字は、売上高全体に対する構成比を表しています。
2.本ページ記載の売上高は内部取引を含んでいません。

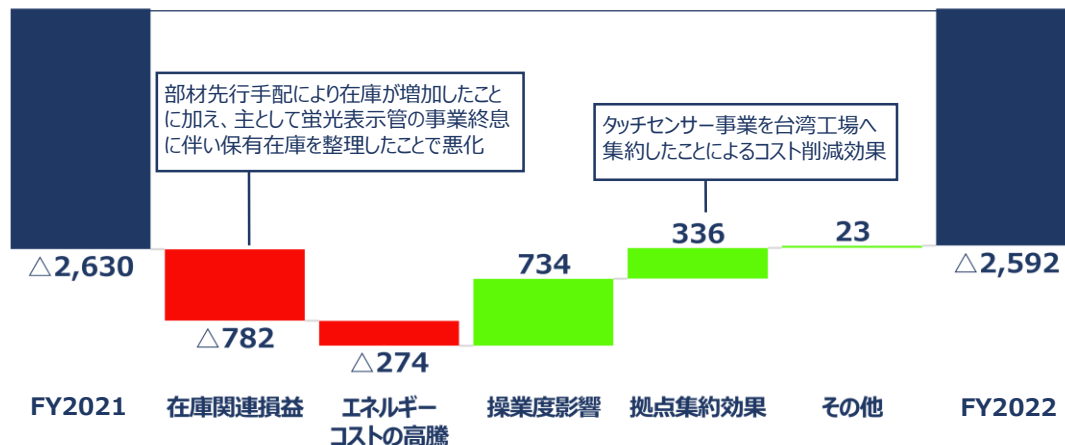
セグメント別業績状況/電子デバイス関連

営業利益差異分析

(百万円)

(百万円)	FY2021	FY2022	増減額	増減率
売上高	22,731	27,307	4,576	20.1%
営業利益	△2,630	△2,592	38	-

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。



(注) 操業度影響には、売上高の増減だけでなく、工場の稼働率の変動に伴う影響も含んでいます。

● 売上高

▶ タッチセンサー(増収)

顧客における半導体をはじめとした部材調達難が一部で解消し、海外の車載用途が順調に推移したことにより、増収

▶ 有機ELディスプレイ(増収)

構成比率の高い海外での映像用途が好調に推移し、円安の影響も受けたことにより、増収

▶ 複合モジュール(増収)

半導体の調達難が一部で解消したことで、国内の計測器用途や娯楽用途、EMSの車載用途や事務機用途が順調に推移し、円安の影響も受けたことにより、増収

▶ 産業用ラジコン機器(増収)

トラッククレーン向けは低調に推移したものの、FA向けが好調であったことにより、増収

▶ ホビー用ラジコン機器(増収)

新製品の販売などにより国内、欧州ともに堅調に推移し、円安の影響も受けたことにより、増収

● 営業利益

増収に伴う操業度の良化やコスト削減効果があったものの、在庫関連損益の悪化や海外製造拠点においてエネルギーコスト高騰の影響を受けたことにより、赤字幅は前期並み

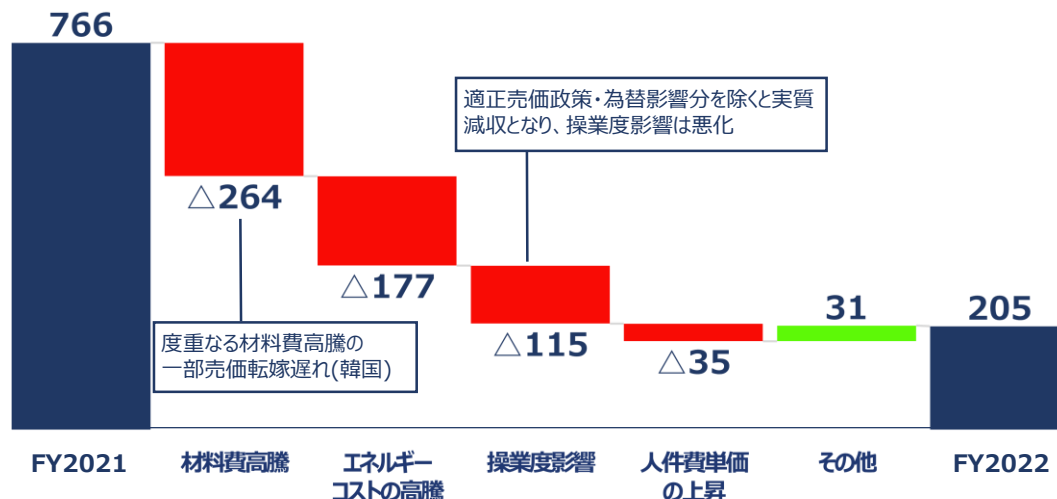
セグメント別業績状況/生産器材

営業利益差異分析

(百万円)

(百万円)	FY2021	FY2022	増減額	増減率
売上高	30,758	33,035	2,276	7.4%
営業利益	766	205	△561	△73.2%

(注) 売上高および営業利益は内部取引を含んでいます。



(注)操業度影響には、売上高の増減だけでなく、工場の稼働率の変動に伴う影響も含んでいます。

● 売上高

▶ 国内(横ばい)

市場の回復に遅れがみられ、成形・生産合理化機器が低調に推移したものの、引き続き適正売価政策を推し進めてきたことにより、横ばいで推移

▶ 海外(増収)

主力の韓国において、携帯電話向けが低迷したものの、自動車関連での需要に回復がみられたほか、円安の影響も受けたことから、増収

● 営業利益

材料費高騰に伴う適正売価政策の推進や円安の影響により増収となったものの、度重なる材料費高騰に対して売価への転嫁が一部遅れたことや、国内外製造拠点においてエネルギーコスト高騰の影響を受けたことにより、減益

連結貸借対照表の状況

【主な増減要因】

- 現預金(原材料の手配、設備投資による支出)
- 棚卸資産(製品在庫および原材料の増加)
- 固定資産(投資有価証券評価差額の計上)
- 自己資本(当期純損失の計上)

- 自己資本比率 75.2%(前期末75.3%)
- 1株当たり純資産：1,739.57円
(前期末：1,782.55円)

(百万円)	FY2021	FY2022	増減額 (前期末比)	FY2022 (百万円)	
現預金	33,626	24,068	△9,558	流動資産 62,118 (△6,044)	流動/固定負債 12,907 (△739)
売上債権	15,466	16,701	1,234		純資産 85,210 (△1,577)
棚卸資産	17,496	20,426	2,929		
その他流動資産	1,574	922	△651		
固定資産	32,271	35,999	3,728	固定資産 35,999 (+3,728)	
資産合計	100,435	98,118	△2,316	資産	負債純資産
流動負債	10,190	9,099	△1,091		
固定負債	3,455	3,807	351		
自己資本	75,611	73,787	△1,824		
非支配株主持分	11,177	11,423	246		
負債純資産合計	100,435	98,118	△2,316		

(注) ()内記載の数字は、増減額(前期末比)を表しています。

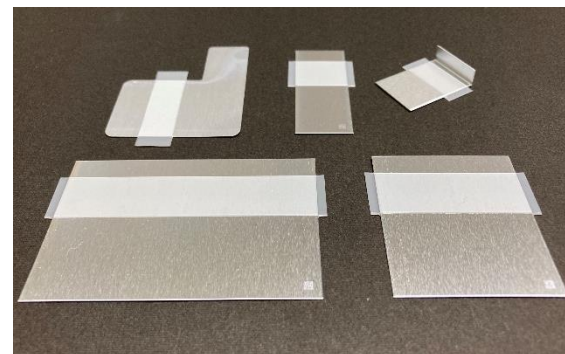
サステナビリティに関する取り組み/環境配慮製品

- 当社グループは、企業哲学である「本質之直視」を研究開発活動にも展開し、グループ一体での環境配慮製品への取り組みを推進しています。エネルギーの効率向上や長寿命化等でCO2の排出量を抑え、環境負荷低減に貢献してまいります。

◎ タブリード (長期信頼性に優れた車載蓄電池向けリード電極)

カーボンニュートラルの実現に向けて、環境に優しい蓄電池の高性能化が求められています。当社では、その蓄電池に使用されるリチウムイオンキャパシタ (LiC) ・リチウムイオン電池 (LiB) 用「タブリード」を提供しています。

当社タブリードは、これまで培った車載向けタッチセンサーや有機ELディスプレイ等の技術を応用し、蓄電池に使用されることで、サステナブルな社会の実現に貢献します。



◎ フェルカーボ (100%リユース材を使用した新素材)

フェルカーボは、フェルト状の炭素繊維を使用したCFRP製切削加工用厚板プレートです。これまで生産の都合上により廃棄されていた炭素繊維を原料とすることで、環境に優しい仕様となっています。また、金属部品からの置き換えにより、消費電力の低減・CO2排出量の削減に寄与します。



- 当社のサステナビリティに関する情報の詳細は、当社HPおよびコーポレートレポートをご覧ください。

当社HP
サステナビリティ



コーポレート
レポート2022



■ 全社関係

- ▶ 事業全般においては、ポートフォリオの変革ならびに持続的な成長を見据えた事業構造の改革に向け取り組んでまいります(注)。

■ 電子デバイス関連

- ▶ センサーやロボティクス関連製品を活用し、お客様のニーズに応えるソリューション事業をグローバルに拡大していきます。
- ▶ 蛍光表示管の海外製造子会社については、会社を解散しグループのリソースについて選択と集中を図ります。有機 E L ディスプレイ事業およびタッチセンサー事業については、製造工程の外注化や外部企業との連携で収益性の改善を進めます。
- ▶ 海外販売子会社について拠点の見直しを実施し、グループ販売体制の最適化を進めます。

■ 生産器材

- ▶ 成形合理化商品(金型内計測システム・ホットランナシステム)、IoTモニタリングシステム、CFRP製切削加工用厚板プレート(フェルカーボ)等のグローバル販売を推進し、事業の拡大を進めます。
- ▶ 中国製造子会社については、事業の再編を含む構造改革を実施し、グループの収益性改善を進めます。

(注)事業の再構築について更に精査実施中のため、6月上旬に追加の経営施策を公表予定です。

◆翌期の業績予想

新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立が進む中、欧米におけるインフレ加速に伴う政策金利の引き上げやウクライナ情勢の長期化によるエネルギー調達難、半導体をはじめとした原材料の供給不足や価格高騰など景気の先行きは依然として不透明な状況が続くものと予想されます。

2024年3月期の連結業績予想につきましては、さらなる事業の再構築を検討しており、現時点では業績予想を合理的に算定することが困難であるため、未定とさせていただきます。

2023年6月上旬に事業の再構築の内容と併せて公表する予定です。